

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動・学習指導	・ESCの実施	・ESCの実施に関して、例年通り滞りなく行うことができ、地域運営学校の活動として定着・維持させることができた。また、コミュニケーション能力も高まった。	A	・ESC運営担当者の位置づけを明確にし、組織的な取り組みの円滑化を、今後もESCを継続する。	・ESCに関して、英語科以外の教員も参加することで、共通理解を図る。 ・全ての発表を見ると、質が高く安定している。英語科教員の質を維持し、成果を担保するようにしてほしい。
	・朝読書・読み聞かせ	・朝読書の継続的な取り組みと共に、学校支援本部の全面的な支援により、読み聞かせを定期的実施でき、言語活動の充実を図ることができた。		・朝読書の継続指導を行うとともに、学校支援本部による読み聞かせを継続して行い、より質の高い言語活動の充実を図る。	・朝読書だけでなく、感想を述べるなど発表力をつける指導を。人前で発表する機会を作るようにしてほしい。 ・「いのちの教育」読書感想文コンクールがあり、道徳との関連を深めながら読書をさせる意識付けも必要。 ・朝の読書は、たくさん読むことが目的ではない。読み聞かせやブックトーク等、さまざまな手法を使って、生涯読むモチベーションを持たせることが大切。 ・シラバスに $\textcircled{\text{読}}$ も入れて、連動を図ってほしい。
	・食育の推進	・全校および全学年において、管理職・栄養士・家庭科・養護教諭の協力体制の下、食育を推進できた。		・食育に関しては、全校体制で、各学年の系統的指導の徹底を図る。	・食育＝栄養面だけで捉えられるが、食べる＝栄養を取る＝食物を作る＝環境にも関わってくる。他教科や「生きる＝いのち」との連動を図ってほしい。 ・各教科シラバスに、 $\textcircled{\text{食}}$ の記号を記すことで、各教科で扱うという意識をするようになるのでは。 ・各教科の教員がこうしようとミーティングする組織ができると、お互いに言えるようになるのでは。

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
特色ある教育活動・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の定着</li> <li>授業規律の徹底</li> <li>補習教室の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の徹底に関しては、学力調査の結果から、都より上位で、区の平均より少し上の結果となっている。教育調査では第一学年保護者の学習指導、学力向上に関する評価が低く、学年による差異があった。</li> <li>生活指導部を中心として、全校共通理解の下、授業規律の徹底に臨んだ。学年・教科によりチャイム着席・授業規律に若干のばらつきがあった。</li> <li>補習教室に関しては、各教科担任による判断・実施に任せていたため、学校支援本部の運営に頼ってしまい、組織的・効果的な運用には至らなかった。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律を徹底し、わかる授業に向けて授業改善を行い、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>全教員による共通理解の上に、共通実践を図ることで、授業規律を徹底させる。</li> <li>学校支援本部と連携し、教科担任支援による補充学習教室により、課題のある生徒への対応を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の指導力向上は、個別に管理職としての対応も必要。</li> <li>チャイム前に教員が教室に行っているのはこの学校の特長である。今後も継続し、教員の指導体制をきちんとしてほしい。</li> <li>補習に関しては、この時間には子供に必ず来てもらおうと指示することも必要。子供たちには抵抗もあるが、学ぶことは楽しいと思える仕掛けを支援本部と作っていくことも大切。</li> </ul>
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESCIは英語科教員を中心に全校体制で取り組み共通理解を図る。</li> <li>学校支援本部の協力を仰ぎ、読書活動において表現力をはぐくむ指導を画策する。</li> <li>食育の指導計画に、各教科との関連性を明確にする。</li> <li>授業規律維持のために、教員が行う指導内容・方法・体制の共通理解を深め、実践する。</li> <li>学校支援本部と連携し、放課後の補習教室設定を策定する。</li> </ul>				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
生活指導・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ調査を中心とした情報収集と対応</li> <li>教育相談委員会を中心とした個別指導・支援体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期1回のいじめ調査を実施すると共に、普段から生徒の声に耳を傾け、欠席状況等にアンテナを張り、いじめ等の早期発見と的確な対応を実施した。</li> <li>養護教諭の主導により、定期的な教育相談委員会を設け、SCとの連携による個別指導・支援体制の充実を図った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の共有化を推進し、よりきめ細かく生徒の状況に目を配る体制を整える。</li> <li>養護教諭と教育相談コーディネーターの連携を強化し、教育相談の活動の充実をさらに拡充させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報の共有化を推進するに当たり、学年担当以外の教員、講師にも担任の持っている情報を伝えていくことが重要。</li> <li>3年生の不登校が多いという実態は、根が深いものがあると考えられる。不登校対応は事例研究、個別理解に尽きる。事例研究などを行い、外部講師の活用をするなど、より具体的な方策が必要。</li> <li>PTAとの懇談をやった際、不登校生徒に対する学校の指導が心配だと保護者の声があった。きめ細かい対応をしないと、不信感を生むことになる。</li> <li>教員の荒い言葉が子供を傷つけていることもある。きめ細かい配慮が必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験的な学習を重視したキャリア教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年、発達段階に応じた進路指導を実施した。特に第2学年における体験場所探しからの職場体験活動が実のあるものとなった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年による指導体制のばらつきを集約し学校としてのキャリア教育プログラムを策定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場体験後に発表の機会を設けることも必要。</li> <li>キャリア教育で気になることは、進学指導に偏っているのでは。キャリア教育＝進路指導として、道徳心、職業観の指導を明確に出して3年間学んで卒業の時にどうかという、出口教育が重要。</li> </ul>
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の共有化のために、生活指導部への情報集約と、そこからの連絡・発信を密にすることで、徹底を図る。</li> <li>特別支援教育の視点から、関係機関との連携など、必要に応じた手立てを徹底していく。</li> <li>キャリア教育の年間指導計画を策定する。</li> </ul>				

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
道徳・総合的な学習の時間・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自他の生命を大切にする実践的態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「いのちの教育月間」において、管理職講話、地域人材による講演を実施し、それに基づく各学年の道徳授業の実践により、生徒自身に自他の生命について考えさせる機会を設けた。教育調査において生徒・保護者・教員共に、80%を超える肯定率であった。しかし、道徳的な心情、実践意欲などの道徳性は、不十分な点もあった。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳のテーマとして「いのち」に重点が置かれた。しかし、学校、学年の実情に即したテーマを臨機応変に策定していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画と教科と関連付けて実践されることが重要。授業時数確保も当然であるが、道徳指導と教科指導の関連と整合性が重要。</li> <li>道徳授業が生徒にとって楽しい、感動したと言えるようになるよう、教材を含め、工夫改善をすることが必要。</li> <li>生命に対する畏敬の念は道徳の根幹である。教員はそのことを十分理解し、道徳教育に臨むことが必要。</li> <li>「自他の生命について考えさせる機会を設けた」とあるが、それは当たり前のこと。どう変容したかが必要。</li> <li>「いのち」は、幅広く深いテーマで多角的にアプローチできる。生徒に教える上で、まず教員の勉強、教員間の議論も十分行ってほしい。安易にステマロタイプ化した「いのち」のテーマを取り上げるのではなく、生徒自らが「いのち」を考えるようなテーマで授業に取り組んでほしい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊体験学習、職場体験学習をとおして、「生きる」というテーマを要に、道徳性を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊体験学習、職場体験学習はそれぞれ成果のあるものとなったが、「生きる」というテーマの関連性に関してはより明確に位置づけを図る必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿泊体験学習、職場体験学習のみならず、全教育活動において、道徳的視点に立った教育活動を展開していく。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会活動におけるボランティア活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心として、学期一回の募金活動、地域行事への積極的なボランティア参加を達成できた。活動内容に対する地域からの評判も高かった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会主導による活動が定着している。今後さらに、生徒全体の活動としてより広く浸透させていくよう働きかけをしていく。</li> </ul>	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道徳年間指導計画と各教科における関連との整合性をもたせ、内容をさらに精選する。</li> <li>体験を重視した総合的な学習の時間を実践していく。</li> <li>地域との連携を図りながら、ボランティア活動を推進する。</li> </ul>					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会、学校支援本部、PTAとの連携を密にし、地域運営学校としての学校運営を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域運営学校としての学校運営は定着できた。学校支援本部、PTAとの意見交換および連携を深めることにはまだ不十分な点もあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援本部、PTAとの連携をより一層推進するため、定期的に会合を開催していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTA運営委の回数を今年度減らした。1年やって、学校とのコミュニケーション不足を感じる。次年度は、回数を増やしていく。</li> <li>学校運営協議会委員にもさまざまな学校内部の情報が入ってくる。それらを校長・副校長伝え対処できるようにしていかないといけない。</li> <li>学校運営協議会は、行政との連携を密にすることを考えていくことも大切。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校を地域に広く公開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業日における学校行事と学校公開により、地域への公開を実践できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、休業日における学校行事と学校公開を継続して行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者が安心して来られるといい。子供が保護者の参観を嫌がる傾向もある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動の情報発信の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページの内容充実と更新回数改善を図り、アクセス数が増加した。各種たよりの内容充実による学校の情報のよりの確な発信が不十分な点もあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校ホームページおよび各種たよりの内容充実を図り、情報発信を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信については、HPに頼っているだけでなく、地域の小学校へ出向いたり、高齢者への発信等も考えていく。</li> </ul>
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>PTAとのコミュニケーションを深めるために、運営委員会の回数を学期2回程度に増やす。</li> <li>情報発信の方法として、近隣小学校との連絡を密に行っていく。</li> </ul>					